

◇ 標準塗装仕様書 ◇

AGCコーテック株式会社

◇工法名	GT-L218/ボンフロンM-60＋落書防止クリヤー工法					
◇適用素地	亜鉛メッキ、アルミニウム材(化成処理)、ボンデ鋼板、鋼材、鋼板で旧塗膜が残る場合 旧塗膜:アルキッド系、エポキシ系、ウレタン系、アクリルシリコン系					
◇使用材料	下塗	ボンエポコート#55MP	塗料液 硬化剤	12.8 kg 3.2 kg	16.0 kg / セット	
		ボンエポコート#55MPシンナー	シンナー	16.0 ℓ / 缶		
	上塗1	ボンフロンGT#2000	主剤 硬化剤	13.0 kg 1.0 kg	14.0 kg / セット	
		ボンフロンシンナー	シンナー	16.0 ℓ / 缶		
	上塗2	ボンフロンGT#2000	主剤 硬化剤	13.0 kg 1.0 kg	14.0 kg / セット	
		ボンフロンシンナー	シンナー	16.0 ℓ / 缶		
	上塗3	ボンフロン落書防止クリヤー	主剤 硬化剤 添加剤	10.0 kg 2.3 kg 0.6 kg	12.9 kg / セット	
		ボンフロンシンナー	シンナー	16.0 ℓ / 缶		

工程		使用材料	希釈率 (%)	標準所要量 ^{注1} (kg / m ²)	塗回数	塗装間隔(23℃)		施工方法
						工程内	工程間	
素地調整		被塗装面をチェックし、塗装に支障のある付着物、汚れ等を除去する。						
1	下塗	ボンエポコート#55MP 塗料液 / 硬化剤 = 12.8 / 3.2	専用シンナー 0 ~ 5	0.14 ~ 0.17 0.17 ~ 0.23	1	—	16h以上 7日以内	刷毛・ローラー エアレス
2	上塗1	ボンフロンGT#2000 主剤 / 硬化剤 = 13 / 1	専用シンナー 20 ~ 30	0.07 ~ 0.09 0.09 ~ 0.12	1	—	3h以上 7日以内	刷毛・ローラー エアレス
3	上塗2	ボンフロンGT#2000 主剤 / 硬化剤 = 13 / 1	専用シンナー 20 ~ 30	0.09 ~ 0.12 0.12 ~ 0.16	1		16h以上 7日以内	刷毛・ローラー エアレス
4	上塗3	ボンフロン落書防止クリヤー 主剤/硬化剤/添加剤 = 10 / 2.3 / 0.6	専用シンナー 0 ~ 5	0.08 ~ 0.09 0.09 ~ 0.13	1	—	—	刷毛・ローラー エアレス
合 計					4			

注1) 標準所要量については、各種施工方法の塗着効率を下記として算出しております。

施工方法	塗着効率(%)
刷毛・ローラー	80~100
エアレス	60~80
各種吹付けガン	50~70

エアレス圧力(参考)5~10Mpa・50~100kg/cm²

注2) 沿岸、工場地区および化学工場、屋内プールなどの腐食環境の厳しい場所には、

第2層にエポライムMC(エポキシ樹脂マイカ塗料)を0.25kg/m²(50μ)塗装して5層仕様にしてください。

注3) ボンフロン落書防止クリヤーは、主剤・硬化剤・添加剤の3液タイプになっています。

注4) ボンフロン落書防止クリヤーは、配合前に主剤を良く攪拌してください。

注5) 艶ありのローラー施工は、なるべく短毛を使用してください。

注6) 雨すじ汚れに関しては、一般の溶剤系塗料に比べて汚れやすい傾向にあります。

注7) 落書を除去する際は、塗膜表面が傷つかないように注意してください。

注8) 除去剤としては、市販されている落書き除去剤「消すぞーくん」(シントーファミリー製)を推奨します。

注9) 上塗3(ボンフロン落書防止クリヤー)の工程で短毛ローラーを使用する場合は、上塗1の塗膜を十分乾燥させるため塗装間隔について次の点にご注意ください。
(上塗2の乾燥が不十分な場合、上塗3の施工時に「にじみ」等の発生により変色・色ムラ等が発生する可能性があります。)

◇塗装間隔の目安

期間	塗装間隔	備考
4月~10月	1日	平均気温が15℃以下では2日間
11月~3月	3日	—

注10) 上塗 艶の種類

	艶有り	7分艶	5分艶	3分艶	艶消し
ボンフロン落書防止クリヤー	○	×	×	×	○

※ 艶有り以外をローラー施工する場合は、光沢ムラが生じる為、避けてください。

※ 艶有り以外をエアレス施工する場合は、一度の所要量を超えると、指定した艶に仕上がらない可能性がありますので所要量を遵守して下さい。

※ 特記 本仕様書と共に下記留意点を必ずご確認ください。
塗装工事における留意点<強・弱溶剤塗料共通>【適応:金属系素地】